

Expert

バイオ関連分野の転職／キャリアアップに新常識

続報、バイオマーカーサイエンス、アンチエイジング事業部創設
不老の検診・医療支援事業全国展開へ



機能性食品評価のバイオベンチャー、バイオマーカーサイエンス(本社、大阪市、高乗仁代表取締役社長)は、4月1日にアンチエイジング事業部を新設、事業分野拡大に踏み切った。(写真は、同事業部片山健部長)。

現在のところ、混合診療が認可されていないため、当面の事業は検診機関(人間ド

ックなど)や自由診療を行っている美容外科、美容整形外科などを中心に、サービスを提供する。将来は、またフィットネス・クラブやリゾートホテルにも展開する予定だ。検診機関や医療機関、100数10社と提携、3年後には20億円の売り上げる皮算用だ。

具体的な検査項目は公表しなかったが、酸化ストレス、ホルモン、ミネラル、アディポネクチン(肥満マーカー)、骨密度など100種以上のエイジング関連検査から、患者や加齢測定対象器官に応じて、適切な検査パッケージを検診機関に提供、それらの検査値の解釈を支援するソフトを提供する。また、検診機関に対して、アンチエイジング事業のコンサルタントも行う予定だ。

現在、動物実験レベルだが、プロテオーム解析によってバイオマーカーサイエンスが見いだしている成人病のたんぱく質マーカーなども、アンチエイジングの指標となる可能性があるれば、導入する計画だ。これによって、独自の検査項目を備え、競争力を獲得する可能性があるだろう。

同社最高科学責任者である京都府立大学大学院吉川敏一教授に加え、同志社大学アンチエイジングリサーチセンター米井嘉一教授を同社の顧問として新たに加え、体制を整備した。米井教授は肌年齢や骨年齢など、加齢マーカーの研究者だ。同社は米井教授に研究費を提供し、アンチエイジングマーカーの研究や、診断結果を解釈するソフトを研究する予定だ。

片山部長は双日の新規事業開発グループ・バイオメディカル・環境事業部部長補佐を、3月末までに勤めていた。(宮田 満)

+プロテオーム+--+